

## 石川県原子力安全専門委員会 議事概要

1. 日 時：平成 27 年 3 月 18 日（水）15 時 15 分～17 時 00 分
2. 場 所：石川県庁 行政庁舎 11 階 1109 会議室
3. 出席者：委員 7 名、説明者、事務局他
4. 議事概要：

- (1) 「志賀原子力発電所敷地内破砕帯に関する原子力規制委員会の審査状況」について、事務局から説明があった。
- (2) 「志賀原子力発電所敷地内破砕帯に関する追加調査」について、北陸電力から説明があった。

(委員) S-1破砕帯の建設当時の旧トレンチの壁面は、谷の方向と直交し、上流側壁面の岩盤が下流側壁面より高いのは谷の勾配によることが明らかである。また、壁面は谷の横断面となっている。これらのことは国の有識者に説明して理解されているのか。

(電力) 包括的な説明はしてきているが、改めて重要な解釈と考える。

(委員) かつての建設当時の専門家の調査をきちんと国の有識者に説明し、認識をもっといただく必要があると思うが、どのように考えているか。

(電力) かつての現場における専門家の調査を重く受け止めていただきたいと思いますと思っているが、3.11以降の国の指示に事業者として真摯に対応している。

(委員) 国の評価会合の議論で、S-1破砕帯の短い区間の中に、動く箇所と動かない箇所があることについてどう考えるか。

(電力) 動かない箇所からわずか 80mの長さの中で数十センチの段差ができるということは、力学的に不可能ではないかと考えている。

(委員) S-2, S-6での砂礫層性状を実証的に調査された結果をS-1の旧トレンチの観察結果にフィードバックして、活動性の有無を検討するという方法も考えればよい。

(電力) そういう観点からも整理をしていきたい。

(委員) 上位の層にせん断が生じるという点に関して、基盤の最小変位はどの程度か。

(電力) 実験において、断層傾斜角が 75° の場合、層厚の 3～5%の変位量でせん断が地盤の表面まで到達しているという結果が報告されている。

(委員) 応力解析結果について、応力変化の絶対値はどうか。

(電力) せん断ひずみ速度として $10^{-4}$ のオーダーが、福浦断層の活動性から得られている。このひずみに剛性率を掛け合わせたものが応力の絶対値になる。ただし、実際の剛性率は不明のため、ひずみとして示している。

(委員) 複数の破砕帯のずれの向きから当時の応力場を推定しているが、サンプル数や破砕帯の組み合わせなどにより応力場が異なる可能性がある。いろんな組み合わせで検討は行ったのか。

(電力) いろんな組み合わせで検討したが、結果として大きく変わらないことを確認している。

(委員) 応力変化の解析結果について、これは、断層が一様に横ずれしたとのことであるが、一様でない方が値が大きくなると思うがどうか。

- (電力) 一般的に、断層の中央部ですべり量が大きく、末端に行くにつれて小さくなる。解析では、山側の頂上の部分を全区間に与えており、すべり量としては、実際に考えられる分布よりも、安全側に保守性を担保した解析をしている。
- (委員) この問題の結末はどのような方向にいかうとしているのか。
- (電力) むしろ事業者というより、国がどう扱うかという話だと思う。当社としては、できるだけ、客観的なデータを積み上げ説明をしていきたい。
- (委員) 何故、過去の専門家の調査が尊重されないのか。過去にどういう事実でこういう判断に至ったのかということを経営者がきちっと聞き、それから決められた方がよいのではないかという感想を持っている。
- (3) 前回の議事概要について、事務局からホームページに公開している旨報告があった。